

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

P03-06

特集 中小企業魅力発信月間大勉強会
地方創生の時代に条例を生かす
～あなたは地域の課題にどう応えていきますか？
田川市の事例から学ぶ～

P10-11

第4回経営実態調査報告書
(2025年4月～6月期)

月刊

同友

10月号

2025
vol.711

protec JAPAN

MODELIX

P07-09 21世紀型自立型企业づくり

みらいをえがく。

自社発信で価値を
生み出し続けられる企業

株式会社 日本プロテック

代表取締役 浅尾 秀康 氏 (西支部)



福岡県中小企業同友会
広報情報部
Facebook

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU



福岡県中小企業家同友会



地方創生の
時代に条例を生かす

～あなたは地域の課題にどう応えていきますか？

田川市の事例から学ぶ～

講演会報告

目的、そして危機感を持つこと

中小企業振興基本条例の目的は、地域全体で中小企業振興を図り、地域を豊かにしていくことです。つまり、中小企業を守ります・助けます……というのではなく、中小企業が頑張ります、その環境を地域でつくっていくましようということです。

立案者は議員ですが、発案者は地域に関わる人たちです。行政・学校や機関・団体・住民などで同友会もその一員です。現状の把握を行い「見える化」することが重要です。

日本社会・経済の変化として、高齢化・人口減少・経済の成熟や停滞・格差の拡大・国際競争力低下に加え、地域社会・経済の変化として人口減少・事業所数減少があります。地域の社会・経済・

三点セット

大事なポイントは「三点セット」ですつまり、振興条例、実態調査、振興会議です。

条例の始まりは東京都墨田区（1979年）でした。70年代のドルショック・石油ショックなどで事業所数が増え、減少し危機感が生まれました。

また大阪市八尾市（2001年）でも、

私が浅尾秀康さんをご紹介します！

(株)アスコム
代表取締役 姫島 陽介（西支部）



浅尾さんは現在、西支部のブロック長として活躍されています。

浅尾さんと私の出会いは、お互い

の娘が幼稚園で仲良くなったことがきっかけでした。当初は「パパ友」として交流を深める中で、浅尾さんが3DCG制作やプロモーション映像制作を手掛ける(株)日本プロテックを経営されていることを知りました。次第に会社経営の話題も増え、2020年12月に同友会へお誘いし、入会していただきました。

り返られていたことが印象的です。

(株)日本プロテックの経営理念は「みらいをえがく。」です。この理念には、CGパースなどの制作を通じて未来を描き、新しい技術を駆使して次の未来を創造していきたいという強い想いが込められています。また、社員間のコミュニケーション不足を経営課題としてとらえ、西支部会員でもあるキャリアコンサルタントを迎えるなど、積極的に社内改革にも取り組んでおられます。

趣味はサッカー観戦やキャンプで子どもたちが小さい頃は家族ぐるみでキャンプやバーベキューを楽しんだことを懐かしく思い出します。浅尾さんはユーモアあふれる方で、一緒にいるといつも笑いが絶えません。

会社・よい経営者・よい経営環境」を実現していきたいと思います。

現場からひとこと



西支部浅尾さんの会社を訪問しました。西支部からたくさんの会員が参加され会議室が満員になるほどでした。浅尾さんはとても緊張されていましたが、多くの質問もあり、支部会員と学びを深めている様子も伺えました。

撮影・文／同友会事務局 長尾 裕美

同友会 3つの目的

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。



今月の表紙

株式会社 日本プロテック

代表取締役 **浅尾 秀康** 氏（西支部）



に下部組織として17年4月に実務責任者会議（現在委員長・荒川雅光氏）が設置されました。福岡同友会もそれに合わせて田川支部を設立させました（つまり地域に望まれて誕生しました）。実務責任者会議は、同友会の委員が中心となり毎月会議を開催して企画立案やその進捗状況を話し合っています。

17年から18年にかけて実態調査を行いました。全2104社の内751社（35.7%）の回答でした。これは行政などが実施するものと比べ高い回答率です。私どもが手分けをして電話しました。その調査の分析を立教大学に依頼しました。

その分析の報告から田川市の特徴や事業所の課題を整理し、ビジョン『中小企業が元気に活躍するまち田川』を描き、4つの部会を立ち上げました。



荒川 雅光氏（田川支部）

（写真左）植田 浩史慶應義塾大学経済学部教授

バブル経済崩壊後、大手企業の海外展開の影響に危機感を覚えました。これらの事例は次の書物に紹介されています。

※『すみだモダン』墨田区産業観光部産業振興課編集2021年
※『大阪・八尾発 50年後も輝く中小企業』日刊工業新聞社2008年

同友会では1993年に「21世紀型中小企業づくり」を提唱し、その後、憲章・条例制定運動を推し進め、組織づくり・支部づくりや行政・他団体との連携を強め、地域づくりを展開していきま

2010年6月18日に中小企業憲章が閣議決定され、14年には小規模企業振興基本法が制定されました。条例がもととあつた地域でも、条例制定世代から代替わりしており、改めて条例の意義と役割、今日的課題に見合った条例の制定や活用を認識するようになり、各地域に広がっていきました。

今回の事例の田川市をはじめ、帯広市、東京都新宿区、愛媛県東温市、宮城県南三陸町など特徴的なものがあります。それぞれのいい所を取り入れましょう（教授はこれを『パクリ』と表現しました）。

また三点セットの一つ、振興会

議には積極的に若いメンバーを入れましょう。常に更新しバージョンアップしていきます。その会議に出たメンバーが「いい情報を得て、いいメンバーと出会えて『得』をした」と思えるような会議にしていきたいです。

混沌とした時代を迎えています。地域ごとの課題・危機感・将来像を共有していきましょう。中小企業の企業づくり（よい企業・よい経営者）を重視し、経営環境の改善を地域と共に行的っていくのは、同友会理念とマッチするところ

労働法規や財務指標、経営指針やマーケティング戦略など

第一部会 中小企業経営者が経営の基本を学ぶ場の開設
部会長 上原 晃一氏
（株）ユニテッドファム）

地域のプラットフォームKIBITTE（きびつて：田川弁で「つながって」の意）には経営指針を持つていないとメンバーになれません。

部会では経営理念やビジョンの重要性を伝えるために動画を作り勉強会を重ねています。

経営力強化セミナーの企画や、SW

check! KIBITTEとは？

KIBITTEは、田川地域内の「生活者」と「事業者」をつなげるネットサービスです。

田川地域にいる生活者と事業者がKIBITTEを通じてつながり、お困りごとを相談したり、仕事を依頼したりすることができます。



ホームページはこちら
<https://kibitte.net/>

田川市事例報告

報告者 荒川 雅光氏

（有）設備工業 代表取締役
（田川支部）田川市産業振興会議 実務責任者会議 委員長

田川における三点セットと同友会の関わり

植田先生の講義を受けて、「三点セット（振興条例・実態調査・振興会議）」の実践例を報告します。

OT分析をワーク形式で実践し学びを深めています。

第二部会 地域の課題を解決するソーシャルビジネスの推進
部会長 佐野 典久氏
（株）佐野豊屋）

「エネルギーシフト」や「SDGs」の推進と事業化

まず、エネルギーシフトSDGsの勉強会をしました。KIBITTEで地域の生活者の「お困りごと」を収集・整理しています。解決のための方策を事業化につなげるようにしています。

この度、ビジネスエントツグランプリ『TAGAWA GOLDRUSH』



69名が参加しました

2010年中小企業憲章が閣議決定されました。石炭産業で栄えた田川市も人口減少をたどり、危機感を覚える中、15年に田川市中小企業振興基本条例が制定されました。その目的を達成させる諮問機関として、16年11月田川市産業振興会議（理事長・中山英敬氏・中同協幹事長が設置されました（後に一般社団法人たがわ地域活性化センター・理事会となり、田川商工会議所会頭・亀川寿氏も副理事長として名を連ねています）。

さらに実効性があるものにするため



を企画しました。社会課題を解決するビジネスプランを募集します。※詳しいスケジュールはKIBITTEまで。

第三部会 生活者と事業者をつなぐ地域プラットフォームの構築
部会長 岡田 光弘氏
（有）花水商店）

地域プラットフォームに必要な基盤の整備と構築

KIBITTEは生活者と事業者をつなぐ地域内経済循環の基盤になります。デジタル田園都市国家構想推進交付金を受けることができました。

暮らしなんでも110番（コールセンター）を設置しています。生活者には広報誌などを用いて周知を図り、事業者には登録を呼びかけています。

登録事業者は経営指針の成文化と実践の場となります。

みらいをえがく。

自社発信で価値を生み出し続けられる企業

絵を描くことが大好きな青年がCGの世界に飛び込みます。やがて経営者となり、幾多の困難に遭います。



プロダクト系として自動車のCGなどを作成しています



株式会社 日本プロテック
代表取締役
浅尾 秀康 氏
西支部

取材＝広報部 文＝菅原弘(東支部) 写真＝長尾裕美(事務局)

会社概要

今回の取材はCG(コンピュータグラフィックス)の会社、(株)日本プロテックの浅尾秀康さんです。西支部から多くの会員も駆けつけてくれました。

冒頭、簡単なCGの説明をしていただきました。

CGには2次元と3次元があります。2次元(2DCG)は平面的な画像や図形をコンピュータで作成する技術で、イラストや漫画、ウェブデザイン、ロゴなどに使われています。3DCGは3次元空間に仮想の立体を配置して2Dの情報に変換することで立体的に見せることができます。映画のリアルな映像や、アニメキャラクターに動きを付けたり、様々な表現に使われます。(株)日本プロテックでは、この技術を駆使して建築CGパースなどを作成しています。写真よりリアルかつ効果的で、更地でまだ着工していない物件をイメー

ジできる販促物としてディスプレイや建築業者、エンドユーザー向けに活用しています。

グループ会社の(株)モデリックス(この会社も浅尾さんが代表)はプロダクト系のCGを扱っています。

生い立ち

浅尾さんは1976年、熊本県で生まれます。美術に秀でており高校で美術を専攻、将来絵を描く仕事になりたいと考えていた時に『手描きの建築パース』に出会い、「こういう手法があるんだ」と興味を抱き、その後九州造形短期大学・デザイン学科に進みます。

卒業時はまさに就職氷河期でした。自分の希望する会社には就職できませんでしたが、何とか熊本県の建築設計事務所に就職します。その頃から、設計図面はアナログからデジタルに、即ち手描きのドラフターからCADにシフトしていきました。

新しいキャリア教育の想像

調査を実施した際に市内の高校生にエネルギーのシフトの観点から企業を興し、経営指針書を作成する取り組み

第四部会 地域で若者を育て
地域に若者を残す活動
部長 奥永 尊仁氏
(土地家屋調査士奥永尊仁事務所)



行政職員、金融機関の方も参加され、熱心にディスカッションしました

報告者のまとめ

地域に関係ない企業はありません。取引先、お客様、社員なども含めて地域です。まちづくりの主役は私たち一人ひとりで。ただ、金だけ、自分だけ」というのはその場しのぎです。産・官・民・学金を巻き込んでいき、他社と競争するのではなく協力して強い地域をつくることで、若い人が残りワクワクする地域になっていきます。それが『人を生かす地域』だと思います

を行いました。それが高い評価を受け、この活動を継続しようと立ち上げたのが『たがわPlanners』です。学校の枠を越え、生徒たちが主体者となり毎月集まって活動しています。

起業する意義や喜びなどを伝え起業家精神(アントレプレナーシップ)を養成する目的があります。

一般社団法人たがわ地域経済活性化センター理事会および実務責任者役員会

日時 令和7年6月19日(木)16時
場所 田川市役所1階 大会議室
所感 中山理事長のあいさつに続き、第1部会から第4部会のそれぞれの活動の進捗状況が細かく報告されて質疑応答がされました。亀川・商工会議所会頭からも期待のこもった意見が出されました。



田川支部7月例会

日時 7月18日(金)18時30分～21時
場所 福岡県立大学 大セミナー室
座長 佐々木 智史氏(株)PANET)
室長 宮崎 大輔氏(株)大貴)
テーマ 同友会を知る会～経営を共に学びあいませんか～

報告者 丸山 信一氏(南丸山組)
倉成 洋子氏(倉成社会保険労務士事務所)

所感 同友会を知る会ではありませんが、実務責任者会議第一部会の意向を反映していると感じました。当日は10名のゲストさんが参加して大いに盛り上がりしました。





(写真左) 同社の梶尾優一郎さんも西支部の会員として共に学びを深めています

と働き甲斐の相反する命題を、成文化された経営指針書を元にコミュニケーションを大切にしていきました。リーダーに抜擢した社員が違和感をもって退社していくケースもありました。この頃コンサルタントも導入しました。

「経営指針書が『絵に書いたモチ』に終わってはいけな」と考えていました。同友会の学び、経営体験報告を聞

きながら自分ならどうするかと自社に落とし込んで考えるようになりまし。波に乗せてもらった感じです」と浅尾さんは語ります。

社内新しい風を

若い社員を採用することで、社内新しい風が吹き込んでいます。日進月歩の進歩を遂げる業界で、社員たちが最先端の技術の情報をドンドン取り入れていきます。お互いにコミュニケーションを取り合い、相乗効果が生まれていきました。プロとして、お客様の要望を超える提案を目指すようにしています。

一方浅尾さんも、マンション・住宅・ホテルなどは富裕層向けが増えている現状に、「一流に触れなければ一流のものは生まれな」との考えから、社員教育の「環」として、『リッツカールトンホテル』の宿泊や『星野リゾート』体験などを企画します。社員を大切にする、学びを得る体験をしてもらっています。「これは姫

「アナログ絵からデジタルCGの時代が来る！」。浅尾さんは、CGの将来性に魅力を感じ、虜になりました。会社を辞して福岡に戻り、バイトをしながらCGを独学で習得します。

株日本プロテック入社へ

さて、話を株日本プロテックに戻すと、1996年、先代の社長が福岡市に会社を立ち上げて、CGの分野に進出します。その情報を聞きつけた浅尾さんは、社員募集もしていないのに、懇願して入社させてもらいました。2001年のことです。社員は4名程だったといいます。

その後、中国で合弁会社を立ち上げ、さらに子会社の(株)モデリックスを立ち上げて、業績は順調に推移していきました。

リーマンショック

浅尾さんは取締役になっていた2008年、リーマンショックが起こります。同社もこ

多分に漏れず打撃を受けました。「仕事がストップしてしまいました」。どうしても社員を解雇しなければならなくなりました。「助けてあげられずに、本当に残念で悔しい思いをしました」。その後事業の見直しを図るなどして売上げを挽回させます。

迎えた2020年、難病と闘っていた社長が逝去します。生前、社長から社長の継承を打診されていた浅尾さんは腹をくくり社長に就任します。しかし今度はコロナ禍が襲い掛かります。

同友会との出会い

浅尾さんは技術者ではあるものの、経営者としては実績がありません。「じつは決算書もよく読めませんでした。やる気は誰にも負けないのですが……」。

そんな折り、子どもの幼稚園で一緒になった『パパ友』の姫島陽介さん(株)アスコムと出会います。よく話をす

る中で、経営の悩みを相談するようになりました。「経営を学ばなら同友会があるよ」と勧められ、即入会しました。

コロナ禍の経営指針作成セミナー

同友会の特徴的活動である『あすなる塾』経営指針作成セミナーに参加します。しかし、時はコロナ禍、非接触の形式で行われました。ホテルに缶詰めになり、各部屋のモニターを使って指針書作成に取り組みます。

どうしても直接話したい時だけ、講師(会員)の部屋を訪ねていくことができました。「二人きりで自社を見つめる空間だったといえば、かっこいいのですが、実際には独房にいるような苦しい状況でした」と苦笑しながら振り返ります。そこで作った経営理念は次の通りです。『みらいをえがく。』

組織化に取り組む 同友会で、社員を最も信頼できるパートナーと考えるという『人を生かす経営』の概念に触れ、過去の苦い経験を思い出し痛く感動を覚えます。



も作成しました。社名であるプロテックに『P』をモチーフに3D空間を構築しています。あえて不均衡ラインは不確実な未来を表現しています。『えがく』ことで、未来を創り、チャレンジしていく(株)日本プロテックの強い意志が込められています。

化に対応していきたくと考える「受託専門から脱却し、自社発信で価値を生み出し続ける企業でしようか。社員一人ひとりが主体的に動くことができ、売り手(顧客)や買い手(エンドユーザー)目線で考えることができ、顧客の想像を超える創造ができる会社だと

自社発信で価値を生み出す

取材の最後に浅尾さんの考える『自立型企業』についてお伺いしました。

「受託専門から脱却し、自社発信で価値を生み出し続ける企業でしようか。社員一人ひとりが主体的に動くことができ、売り手(顧客)や買い手(エンドユーザー)目線で考えることができ、顧客の想像を超える創造ができる会社だと

浅尾さんのAction

一日中PCと向き合う仕事環境でいかに有機的に組織化していくか…大切にしたのは経営指針書を元にしたコミュニケーション



株式会社日本プロテック

創業 1996年
住所 福岡市博多区
博多駅前4-36-29
博多IBセンタービル5F
電話 092-432-1181
社員数 21名
事業概要 3DCG制作、CGアニメーション、VR制作を手掛ける会社です。

https://www.protec.ne.jp/



企業情報

第4回 経営実態調査報告書 (2025年4月～6月期)

「景況感横ばい。先行き見通しづらさ高まる。自社の存在意義を改めて問い直し、社員と共に付加価値を高めよう。」

調 査 要 領	調 査 時 間	2025年6月1日～2025年6月30日
	対 象 企 業	(一社)福岡県中小企業家同友会 全会員企業2,367社(5月時点)
回答企業の概要	調査の方法	e.doyuアンケートによる自計方式
	回 答 数	416社の回答(回答率17.6%)(農林水産業3社、製造業43社、建設業71社、小売業27社、卸売業26社、サービス業246社)
	企 業 規 模	0名73社 1名～5名132社 6名～20名118社
	(従業員数)	21名～50名57社 51～100名21社 101名以上15社
	企業の所在地	福岡地区(市内) 198社 福岡地区(市外) 48社 北九州地区 45社 筑豊地区 66社 県南地区 43社 県外 12社

概 況

「今期業況判断DI(前年同期比)」は、前回調査(2025年1-3月期)の「3.8」に比べて、1.9ポイント微減して「1.9」と横ばいだった。「次期業況判断DI(前期比)」も前回調査と比べ0.9ポイントの「22.6」となり、見通しは横ばいとなった。県内中小企業の景況感に大きな変化は見られなかった。

「売上高DI(前年同期比)」はマイナス0.4ポイントで「14.7」へ微減となった。「販売・客単価DI(前年同期比)」は上昇したとの回答企業が146社ある一方、売上が増加した回答企業のうち理由に「販売・受注価格の上昇」とした企業は33社にとどまり、販売・客単価の上昇が必ずしも売上増加まで至っていない企業が多いとみられる。

「採算DI(前年同期比)」は2期連続でマイナスとなり、2.4ポイント低下し、「7.4」となった。回答企業416社のうち55.8%の229社が今期「黒字」「やや黒字」で、黒字企業の回答割合は前回と変化はなく、「赤字」「少し赤字」は18.8で5社に1社程度だった。採算が「好転」した107社のうち76.6%、4社のうち3社が「売上数量・客数の増加」を好転理由に回答したが、一方で「売上単価・客単価の上昇」は46.7%と半数弱の回答にとどまった。

「仕入単価DI(前年同期比)」は前回調査より4.4ポイント低下したが、「49.6」と高水準を推移している。「次期見通しDI(前期比)」も6.2ポイント低下したが、「41.4」と仕入単価は引き続き上昇局面と言える。また、209社(52.4%)が仕入単価「上昇」と回答したのに対して、販売・客単価が「上昇」したと回答した企業数は、146社(41.6%)にとどまった。

「人手過不足DI」はプラス6.8ポイントで「-37.9」と増加したものの、人手不足感は継続している。また、採用状況の設問では「採用できずに困っている」との回答が79社あり、「採用していない」企業を除くと3割程度が採用困難であった。「資金繰りDI」は、前期は3期ぶりにマイナスの「-1.5」だったが、今期は前期比で「2.8」

とプラス域へ転じた。

経営上の問題点では前回初めて回答数が1位となった「人件費の増加」が引き続きトップ(22.4%)となった。「仕入単価の上昇・高止まり」も引き続き2位(21.9%)と依然高水準であり、3位は従業員不足(20.4%)となった。また、「同業者相互の価格競争」が4位(19.0%)となり、市場環境の変化が見られた。

特別調査「採用に関する影響調査」

- 「高卒」新卒初任給は、「19万7,500円以上～22万3,900円未満」とする企業の回答割合が23.4%と最も多かった(n=248)。「高卒全国平均19万7,500円(『令和5年度賃金構造基本統計調査』より)」以上の企業は83社だった。また、「大卒」新卒初任給は「19万7,500円以上～22万3,900円未満」とする企業の回答割合が36.5%で最も多く、「大卒全国平均24万8,300円(『同調査』)」以上の企業は20社だった。
- 大企業の新卒初任給大幅引き上げに関して自社の採用への影響については、「大きな影響がある(採用が困難になる)」98社、32.7%と「ある程度影響がある(応募数や質などに変化がある)」69社、23%と、「影響はあるが限定的(特定職種や条件に限られる)」52社、17.3%と合わせると、73%で4社に1社程度が「自社の採用に影響がある」と回答した(n=300社)。



第4回 経営実態調査報告書



今期の主要 DI 値

主要指標	今期	前期比	前期DI
今期業況判断DI(前年同期比)	1.9	-1.9	3.8
次期業況判断DI(前期比)	22.6	-0.9	23.5
売上高DI(前年同期比)	14.7	-0.4	15.1
採算(経常利益)DI(前年同期比)	7.4	-2.4	9.8
採算(経常利益)水準DI(前年同期比)	37.1	5.0	32.1
仕入単価DI(前年同期比)	49.6	-4.3	53.9
販売・客単価DI	28.3	-7.4	35.6
人手過不足DI	-37.9	6.8	-44.7
資金繰りDI	1.2	2.8	-1.5

※端数処理の関係上、前回DI値からの増減と今期DIが必ずしも一致しない項目があります。

アドバイザーコメント

九州国際大学 現代ビジネス学部 教授 三輪 仁

経営実態調査も4期を迎え、1年目のサイクルが完了したことになります。

回答件数をみると2期連続で減少し、第1回経営実態調査と同数の416件にとどまりました。リニューアル後の4回平均の回答数は448.8件となり、景況調査の最終4回の平均510.5件に比べると見劣るものの、11期連続で400件以上と高い水準が継続されています。

調査結果に移りますと、景況判断、売上高、採算(経常利益)などの主要DIは、2期連続で前期比±5ポイント内と小幅な変動に収まっています。「業況判断DI」を取り上げてみますと、今期は1.9と前期から-1.9ポイント低下しています。ここで回答構成をみると、「普通」の比率が53.4%と前期より7.5ポイント増加となっており、前期比で悪化したというよりは、より0に近づいたと表現する方が適切かもしれません。分析会議の場でも、仕事はあるものの利益が取りづらい業況にあるとのご意見を伺いました。悪い業況とは言えないものの、不確実性や変動性の高まった状況がこうした回答結果にも現れているともいえます。

「資金繰りDI」は再びプラスに転じました。「採算(経常利益)水準DI」が前期比5ポイント増と、黒字企業の比率が若干高まったことも一因と考えられます。回答構成をみても、資金繰りに「余裕あり」が若干上昇、「窮屈」が若干下落と質的にも改善がみられます。ただし、コロナ特例ゼロゼロ融資が実施されていた

2023年の水準に比べると「資金繰りDI」は10ポイントほど低く、楽観視できない状況といえます。

「仕入単価DI」は今期49.6と、はじめて50を切る低い水準となりました。これは「上昇」から「横ばい」に回答がシフトしたことによるもので、「低下」の比率は2.8%と極めて低くなっています。一方で「販売・客単価DI」も前期より低下し、下落幅では「仕入単価DI」を上回り、両DIのギャップは-21.3ポイントに拡大し、価格転嫁が依然として進捗しにくい状況が示される形となりました。「仕入単価DI」については本指標が導入された2023年7～9月期からの2年間で20ポイントほど低下しています。資源価格、エネルギー価格など物価高の報道はひところよりは落ち着いたものの事態は改善されているわけではなく、「横ばい」比率の上昇をふまえても、高止まりの常態化を反映したものといえます。

最後に回答数の減少要因については、業務の繁忙化によって、回答する時間余裕がない会員が増加しているのではないかとのご意見がございました。回答者の過半数を占めている従業員5人以下の企業においては、経営者が回答する機会が多く、業務負担の増大が回答の敬遠につながるものが想起されます。こうした小規模企業者会員の回答率向上に向けて、回答の負担軽減や回答の誘引となるような方策を引き続き検討していきたいと思います。

日本政策金融公庫を知る会

日本政策金融公庫を知る会が7月30日に
会員増強部主催で開催されました。

公庫から事業の紹介、会員の体験報告を受けてのグループ討論では、
お互いの理解を深める貴重な時間となりました。

報告▶ 北原 正 (南支部)

写真▶ 日本政策金融公庫よりご提供



まとめる北原さん

日々経営に悩んでいます。その
悩みを解決する場が福岡同友会
にはあります。経営者の悩みは
同友会に任せてください。②同
友会の皆さん、資金に悩んでい
る仲間(会員)がたくさんいます。
そういった人がいたら日本公庫
に紹介して、相談に行ってくだ
さい。また今日のこのような交
流を広げるためにも、各支部の
例会やブロック会に日本公庫の
方をお呼びして交流を深めてい
ってください。

相互の連帯を確認

最後は、会員増強本部長の入
江恵美氏が閉会の挨拶をして、



公庫3事業についての紹介

まず、会員増強部部長の横山氏より挨拶がありました。その後、日本政策金融公庫福岡支店融資第二課長 平原裕介氏より国民生活事業を、副事業統括 村哲朗氏より中小企業事業を、融資第二課長 武田友樹氏より農林水産事業を説明いただきました。

日時 2025年7月30日(水)18:30~21:00

会場 福岡県中小企業振興センター202

報告者 日本政策金融公庫 福岡支店
国民生活事業 融資第二課長 平原 祐介 氏
中小企業事業 副事業統括 新村 哲朗 氏
農林水産事業 融資第二課長 武田 友樹 氏

体験報告 LifeEF 代表者 池田 和夫 氏(南支部)

回答数 58(会員49、公庫9)

同友会からは横山部長より、同友会の説明をしていただき、「LifeEF」池田和夫氏(南支部)より、創業から日本政策金融公庫の融資実行までの体験報告が行われました。

融資についての会員報告

池田氏は創業と同時に同友会に入会し、あすなろ塾、経営指針作成セミナーへと参加しました。営業や仕入れのため、融資を受けることを決めました。そのことを同友会の仲間に相談すると、融資に必要な事業計画書のひな型や書き方を教えてくれました。



同友会について説明する横山さん

その結果、希望していた金額で融資が実行され、南支部メンバーのフォローを受けながら、売り上げは順調に伸びました。

グループ討論は相互理解の時間に

その後、グループ討論が行われました。日本政策金融公庫から9名参加していただき、すべてのグループに日本公庫の方が入り、熱心な討論が行われました。グループ討論は「日本政策金融公庫と同友会、お互いの強みを活かすには？」というテーマで行われました。日本公庫メンバーへの質問が多く、熱い議論が交わされました。

経営の悩みは同友会、融資の悩みは公庫へ

最後は会員増強部相談役の北原正氏が以下の2つのポイントでまとめました。①日本公庫の皆さん、融資をした経営者は

参加者の声(一部抜粋)

【同友会から】

●日本政策金融公庫さんが身近にいなかっただけで、私の会社もそうですが、まだ多くの会社が出会っていないだけだと思います。

●メインバンクとの関係も大事にして、公庫さんと一緒に融資を受けるなど、やり方が色々あることがわかった。

●本当に良い会です、経営の選択肢が広がりました、感謝です、運命的な、何かを感じるくらい、良かったです。

●人脈の部分では同友会に入っているが一番に言った方がいいです、と公庫さんからの案内でした。

●しっかりとした経営計画や理念が融資の基準とわかった事が非常に良かったです。

●資金調達の域を越えて、経営課題に寄り添う、伴走型支援の深化を期待します。

●資金調達の知識がまだまだ乏しいです。借り換え、長期、短期、制度、融資の活用、メリッ

ト、デメリット、条件などもっと知りたいです。

●是非多くの仲間知ってもらいたいのので支部例会などにもご参加いただきたい。

【日本公庫から】

●経営者の公庫に対する率直な印象などをさくばらんにお聞きすることができ大変有意義でした。

●同友会の活動や意義について知ることが出来ました。前向きな質問をたくさんいただきました。

●公庫と同友会の親和性があることに感動しました。

●同友会の案内をいただき、経営者の方々は志高く勉強されていることが理解できました。会員の方で公庫を知らない方への紹介をお願いいたします。

●引き続き支援して福岡の経済を活性化していければと思います。このような機会を継続していただけるとありがたいです。



まもなくフォーラム 今こそ同友会！ ワクワクしながら挑戦を！

副実行委員長あいさつ

中原亜希子
(ひびき支部)二宮輝昭
(博多支部)

今、私たちが生きる時代は、とてつもないスピードで変化しています。昨日までの常識が、今日には通用しない。市場の動きも、テクノロジーの進化も、人の価値観も、目まぐるしく変わり続けています。そんな時代に経営を担う私たちにとって、大切なのは「何をどこで誰と学ぶか」だと強く感じています。

経営は孤独だと言われます。しかし、同じ立場に立つ経営者同士だからこそ、分かち合える痛みがあり、響き合える言葉があり、そして勇気をもらえる瞬間があります。課題のない会社など存在しません。だからこそ私たちは、このフォーラムで学び、気づき、そして仲間との対話を通じて「次の一手」を見つけ出していくのです。

今年のテーマは「**今こそ同友会！ワクワクしながら挑戦を！**」。変化の波を恐れるのではなく、むしろその波を楽しみ、挑戦する心を持つこと。それこそが、未来を切り拓く最大の力になると信じています。

今年は700名の参加を目標に掲げています。ぜひこの熱気あふれる場に加わってください。ともに語り合い、ともに磨き合い、そして新しい挑戦への一歩を踏み出しましょう。

福岡の天神でお会いできることを、心から楽しみにしています。さあ、ワクワクしながら挑戦を！

《ワクワクしながら》

挑戦を！

Take on
challenges
with
excitement第31回 福岡県中小企業
経営者フォーラム2025
10/24 13:00-20:00
[受付12:30~]
- FRI -会場：TKP エルガーラホール ほか
基調講演・分科会…無料／交流会…8,000円

基調講演 13:00~

社員と共に“ワクワク”育つ企業づくり
(株)丸忠 代表取締役 喜納朝勝 氏
(沖縄同友会監事／中同協副会長)

分科会 15:00~

第1分科会

今こそ同友会 ワクワクする経営への挑戦
報告▶(株)アーキテックス 代表取締役 栗山浩 氏
(南支部)

第2分科会

自立型企业への軌跡
報告▶(株)東洋硬化 代表取締役社長 小野賢太郎 氏
(久留米支部)

第3分科会

仲間の声を集めて、自社と地域と未来を変える！
報告▶広島同友会専務理事 源田敏彦 氏

第4分科会

衰退産業のアトツギの覚悟
報告▶(株)イナバ 取締役 稲葉雄大 氏
(久留米支部)

第5分科会

インタビューシップがもたらした
社内の変化と未来の可能性
報告▶(有)さめしま 代表取締役 野中真琴 氏
(ひびき支部)

見学分科会

『日本でいちばん大切にしたい会社』って
どんな会社？
報告▶ATUホールディングス(株) 代表取締役
岩崎龍太郎 氏(福博支部)

交流会 18:30~

※お問い合わせは事務局まで

10金 北九州支部・ひびき支部合同例会
18:30~20:15
コムシティ大会議室
同友会を知る会
その経営の悩み、
一人で抱えていませんか？
答えは「同友会」にあります！14火 青年支部10月例会
19:00~21:00
アクア博多 A会議室
未来をつくる“生存戦略”
～全ての経営者が未来を選び取る為に～
■永松 拓睦 氏 (株)香椎造園
取締役(東支部)15水 久留米支部10月例会
18:30~20:30
ハynesホテル久留米
女性経営者に学ぶ!!
【パネルディスカッション】
ファシリテーター
■飯干 佑美 氏 (株)Indi Works
執行役員(久留米支部)
パネリスト
■入江 恵美 氏 (株)オー・エー企画
代表取締役専務(福友愛支部)
■降旗 美香 氏 (有)Miyamaコーポレーション
代表取締役社長(福友愛支部)
■金谷 愛里沙 氏 梅原建設(株)
代表取締役(福友愛支部)16木 福友愛支部10月例会
18:30~21:00
アクア博多 A会議室
「共感でつながる組織を目指して」
～理念を浸透させる経営者の実践～
■木下 まき 氏 (株)マーキュリー
代表取締役(東支部)
WEB会議システム「Zoom」
(ZoomミーティングID等は別途連絡)17金 企業連携推進委員会
FAST10月例会
18:20~20:30
福岡同友会全体会議室
シンデレラ戦略実践セミナー
「顧客フォロー」
■深見 信吾 氏 深見経営(株)
代表取締役 東支部20月 田川支部10月例会
18:30~21:00
県立大学 大セミナー室
同友会を知る会21火 大牟田支部10月例会
18:30~20:30
グランドホテル清風荘
同友会を知る会 同友会と私
■縦山 英宗 氏 e-FitsLab(株)
代表取締役(南支部)
■武仲 史晃 氏 (税) o-tax
社員税理士(大牟田支部)21火 福友和支部10月例会
18:20~21:00
アクア博多 A会議室
原点に戻り「利益を生み出す」
強みを活かした経営を学ぼう
～企業の維持・発展をしていこう～
■吉行 剛 氏 (株)Buddy
代表取締役(福友和支部)
WEB会議システム「Zoom」
(ZoomミーティングID等は別途連絡)23木 新会員
フォローアップセミナー
18:00~21:00
振興センター30328火 南支部10月例会
18:30~20:50
アクア博多 A会議室
社員が輝き続ける組織とは？
■杉谷 知範 氏 (株)朝日酸素商会
代表取締役副社長(南支部)
WEB会議システム「Zoom」
(ZoomミーティングID等は別途連絡)お申込み、お問い合わせは
e.doyuもしくは、
同友事務局までお願いします。
お知り合いの方を誘って、
是非ご参加ください。

2025年度 第4回 理事会議事録

理事会議事録の詳細はe.doyuの
「文書管理」にある「理事会議事録」にてご覧ください。開催日時 2025年8月27日(水) 14時30分~17時02分 会場 福岡県中小企業振興センター301会議室
出席数 35名(出席率89%) 議長 重松 和孝

1 入退会審査

入会18名、退会11名、休会からの退会1名(会員数変動なし)、休会1名が承認され、8月承認会員数は2,368名となった。また、移籍申請1名を確認した。

2 「全体構想」について

全体構想の目的について改めて説明があり、各支部から挙げた意見を共有した。

3 ハラスメントについて

ハラスメント相談窓口を事務局に設置すること、その周知のため全会員にe.doyuでメール配信することが承認された。

4 企業づくりより

引き続き経営指針文化・実践の声かけ、企業変革支援プログラムの登録促進が呼びかけられた。

5 地域づくり推進本部より

第5回経営実態調査に「米国関税に関する特別調査」の項目を追加することが承認された。

6 同友会づくり推進本部より

第53回青年経営者全国交流会 in 香川について、福岡の参加目標を80名とすることが承認された。

7 増強本部より

既存会員や退会申請者へのフォローといった「強」の活動にも力を入れるよう呼びかけられた。

8 経営者フォーラム委員会より

経営者フォーラムの参加目標を700名とすることが承認された。

9 会員企業の動き

■経営革新計画承認企業
2025年7月(県10件/うち同友会会員企業1件)
宮田織物(株) 吉開 ひとみ 氏(福友和支部)
(テーマ)伝統織物の価値を世界へ:生成AIと海外クリエーター連携によるサステナブルブランド構築とEC強化。■福岡市ソーシャルビジネススタートアップ成長支援事業に選定
(株)ORARE 権藤 菜津姫 氏(西支部)
(内容)人と地球にやさしい商品開発と子ども支援



月刊

同友

10月号

2025
vol.711トピックス
会員

「多胎家庭の孤立と虐待」を テーマにしたシンポジウムを 福岡で開催

文・写真：牛島 智絵（福友愛支部）

2025年7月、福岡市にて「多胎家庭の孤立と虐待」をテーマにした多胎シンポジウムが開催されました。主催は、双子・三つ子などの多胎育児家庭を支援する一般社団法人tatamama。全国から行政・福祉・医療・保育・研究者・当事者団体が集まり、オンラインを含め200名を超える参加者が議論を交わしました。

問題の現状

多胎世帯の虐待死は単胎世帯の2.5～4倍、離婚率は1.5～2倍にのぼります。シンポジウムの目的は、見えにくい多胎育児の困難に社会全体でどう向き合うかを考えること。支援の現場で「制度はあるのに使えない」「助けてを言う気力すら残っていない」という当事者の声が共有され、支援の本質とは「用意することではなく、届くこと」だと強く問いかけられました。

tatamamaの目的

一般社団法人tatamamaは2023年設立。福岡県内の多胎世帯に直接的な支援活動をしています。年間約8,700組誕生する多胎児家庭が、制度の隙間に取り残されている現状に対し、「情報の届きづらさ」「孤立の深刻さ」を調

査・可視化し、支援と当事者をつなぐ活動を続けています。日々寄せられる「外出が困難」「相談先がわからない」といった声には、助産師会や保育協会などと連携し個別対応も実施しています。

シンポジウムは単なる啓発ではない

今回のシンポジウムは単なる啓発に留まらず、支援制度がなぜ届かないのか、なぜ孤立が見逃されるのかを本質的に問い直しました。これまで“支援をつなぐ”役割を担ってきましたが、これからは「仕組みそのものを変える」挑戦へと踏み出します。孤育てをなくし、社会全体で子育てを支える構造へ転換するためです。

子育ては家庭だけの責任ではなく、社会の未来を育むインフラです。双子や三つ子の育児は、課題を極限まで凝縮した社会の縮図。ここで見える困難を乗り越えることができれば、すべての家庭にあたたかな循環が広がります。

tatamamaはこれからも現場の声を力に変え、制度と社会をつなぐ存在として歩み続けます。

tatamama
ホームページ

2025年10月1日発行（毎月1回・1日発行）

福岡同友会

<https://www.fukuoka.doyu.jp/>

アンケートにご協力ください 回答締切 10月31日（金）

月刊同友会では、皆様からのご意見・ご要望を募集しています。
よろしければQRコードからアンケートにお答えください。（所要時間 4分）



一般社団法人 福岡県中小企業家同友会

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号
福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234 FAX:092-686-1230

北九州地区センター

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル808号
TEL:093-551-3111 FAX:093-551-3344

県南地区センター

〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355 FAX:0942-33-3366